

松阪紀勢版

松阪市 災害時の非常食など調達 推進機構と協定

松阪市は十三日、一般社団法人「日本非常食推進機構」(四日市市)と、災害時の非常食などの調達に関する協定を結んだ。

推進機構は三年前か



山中市長(左)に「白い小箱」の中身を説明する推進機構の古谷賢治さん(中)と西井一浩さん(右)＝松阪市役所で

ら、アルファ化米や水、アルミ防寒シートなど、急場をしのぐために必要な物資を詰められた箱「白い小箱」を家庭に配備し、災害に備える運動を始めた。居住

地で災害が発生した場合に自分で使ってもらうだけでなく、近隣地域で発生した場合、推進機構が回収して被災地に届ける仕組みだ。

今回の協定で、松阪市で災害が発生した場合、近隣地域から集められた白い小箱が市に提供される。中身が同じであるため、避難所で仕分けする手間が省ける。十一月には市内で六百個を無料で配布

する。個人や自治会単位で購入もでき、推進機構は白い小箱の普及率を高めた考え。

市役所で開かれた協定の調印式で、山中光茂市長は「市民にとつて安心材料になる」とあいさつ。推進機構代表理事の古谷賢治さん(左)は無料配布に触れて「みなさまの家庭で備蓄品をそろえていただくサンプルにしてほしい」と話した。

県内では、桑名、四日市、鈴鹿、伊勢の四市と東員町が既に推進機構と同様の協定を結んでいる。(戸川祐馬)